



福崎町立  
柳田國男・松岡家記念館  
〒679-2204  
神崎郡福崎町西田原  
1038の12  
電話：0790-22-1000

# 狭くない？日本一小さな家

柳田國男の生家はよく「日本一小さい家」と表現されます。では実際の広さはどのようなものでしょうか。



間取りは四畳半が2部屋、三畳が2部屋あり、それらが「田」の字型に配置されています。このほかに土間があります。基本的に寝食できるスペース



家具が無いと多少広く感じます

## 「奉職履歴」

この度、記念館に松岡静雄に関する新たな資料が寄贈されました。静雄

## 新蔵資料紹介

としては上記の4部屋のみです。現在の家の広さを考えると、一見本当に狭そうに感じられます。しかしこの家が建築された江戸時代の農家の間取りとしては標準的なものだそうです。だから特別、小さな家ではありません。

## 國男自身「日本一小さな家」と評した理由は別のところにあります。

それは家族の構成です。明治12年には、この家に両親、<sup>かなえ</sup>俊次(松岡家次男。19歳で急逝)、通泰、國男、静雄、そして鼎の妻の8人が暮らしていたのです。このとき、映丘はまだ生まれて



表紙。全文手書きです

は國男の弟で、海軍を歴任後、言語学の研究に力を注いだ人物です。

寄贈された資料の中に、『奉職履歴』というものがあります。これに

いません。標準的な家とはいえず、両親と鼎夫妻の大人4人と俊次以下の子ども4人が住む家としてはやはり狭いものです。

ただ、「この家の小ささ、という運命から、私の民俗学への志を發した」と柳田國男が回顧されておられ、この家やそこでの体験があったからこそ現在の民俗学というものが確立されたともいえるのです。

は海軍時代の静雄の行動や任務歴などが細かく記録されていました。

詳しく記録されていると期待し、今からちょうど100年前の1911年6月ごろの静雄の行動を探してみると・・・残念ながらこの前後



紙は海軍省の原稿用紙

## 記念閑話

4月末に記念館・生家及び歴史民俗資料館にてテレビ番組



「鉄道百線」の撮影が行われました。

「鉄道百線」は各地の鉄道路線を取り上げ、その路線と沿線にある施設、名勝などを紹介する1時間の番組です。今回は播但線沿線の施設の1つとしてもちむぎの

2年くらいの記述がありませんでした。

この資料は大変貴重なものです。当時の静雄の行動が記されており、詳細な行動について確認できることを期待しています。詳しく分析でき次第、何らかの形でご紹介していきたいと思



やかたと共に記念館周辺の施設が取り上げられました。

取材当日は朝から曇りがちで、ときより雨の降る不安定な天気でした。しかしいざ撮影が始まると雨が上がり、気持ちの



撮影の様子

良い日差しも差し込むようになりました。この日は生家や記念館の外観を撮り、そして柳田國男の写真を撮影しました。

今回は沿線の施設の1つとして取り上げられましたので、放送時間そのものは2、3分です。

なお、放送は来年の春頃の予定だそうです。まだまだ先のことですが、今から放送が楽しみです。